

環境活動レポート



〔2015年度版〕

(対象期間:2015/9～2016/8)

2016年09月10日作成

木田工業株式会社

目 次

1. 環境方針	2
2. 会社概要	3
3. 環境目標とその実績	5
4. 主要な環境活動計画の内容及び取組結果の評価と次年度の取組内容	6
5. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	7
6. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 環境方針

環 境 方 針

基本理念

私たちは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを全員で認識し、企業活動のあらゆる場面で、地球環境の保全に取組み、地球環境と調和した持続可能で豊かな社会の形成に貢献します。

行動指針

1. プラスチックの切削加工、その他、全ての事業活動において生じる環境への負荷を低減するために、環境経営システムを確立し環境活動の継続的改善を行います。
2. 全ての部門で次の削減に取り組めます。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 廃棄物排出量の削減
 - 3) 水使用量の削減
 - 4) 化学物質使用量削減
 - 5) グリーン購入
 - 6) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮
3. 不良の低減、端材の工夫活用による材料削減で、使用材料の効率化を図ります。
4. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
5. 環境方針は、全ての従業員、及び当社に直接関わる人々に周知し、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域企業として社会に貢献します。
6. 環境活動レポートを広く一般に公表します。

制定：2009年10月 1日

改訂：2011年 7月 1日

木田工業株式会社

代表取締役社長 木田 豊

2. 会社概要

2.1 事業所名及び代表者名

木田工業株式会社

代表取締役社長 木田 豊

2.2 事業所の所在地及び認証・登録範囲

事業所	所在地	認証・登録範囲の該否
本社・工場	東京都大田区矢口 1-5-8	該当
栃木出張所	栃木県宇都宮市幕田町 705-3	該当

2.3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 芹澤 浩

担当者 品質保証部 芹澤 浩

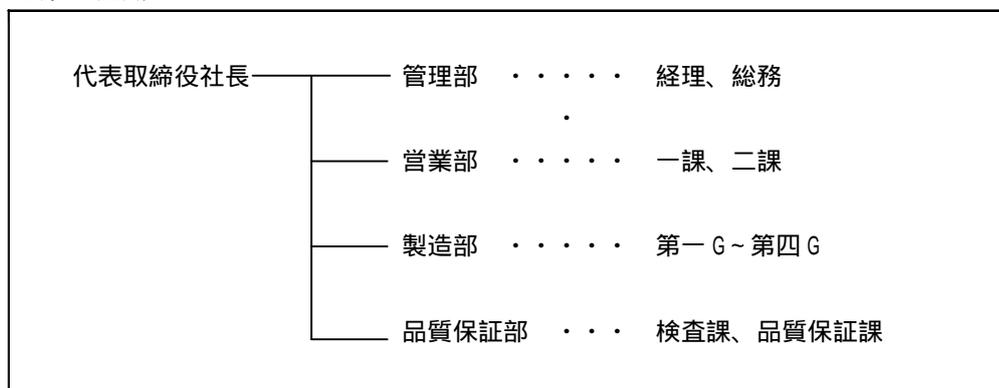
連絡先 電話 03-5741-7410 F A X 03-5741-7413

E-mail h-serizawa@kida-i.com

2.4 事業活動の概要

プラスチック製品の切削加工及び組立（エンジニアリングプラスチックパーツの製造を含む）

2.5 会社の組織



2.6 事業の規模

(1) 資本金

2,000 万円

(2) 主要製品の生産量・出荷量（ 2015 年度：2015/9～2016/8）

製品名	生産量・出荷量（ t ）
アミューズメント用外装品	17.8
その他プラスチック切削加工品	88.4

(3) 従業員数

役員 5名 社員 41名 パートタイマー 14名 合計 60名

(4) 事業所の敷地・建屋面積

敷地面積	建屋延べ床面積
1,140 m ²	3,185 m ²

2.7 施設等の状況

〔主な機械・検査設備及び車両等〕

設備名	能力仕様	台数
マシニング	300×300×300 ~ 2050×1060×800	29
NC旋盤	25 ~ 320	22
旋盤	230 ~ 720	10
NCフライス	700×350 ~ 750×400	7
フライス	400×150 ~ 750×400	3
溶接ガン		5
NCドリラー		2
プレーナ		3
パネルソー		2
バフ機		4
鏡面機		1
その他、生産設備		18
三次元測定機		1
輪郭形状測定機		1
画像寸法測定器		1
車両	ガソリン車(4/6台燃費向上車へ変更)	6
車両	ハイブリット車	1

2.8 許認可・届出の内容

許認可・届出の区分	名称	許認可・届出先	年月日
許認可	工場設置認可申請書	大田区長	H19.11.6
届出	特定施設設置届出書	大田区長	H19.11.6

3. 環境目標とその実績

環境目標	取組項目	基準値		2015 年度実績	2016 年度
1. 二酸化炭素排出量の削減 ()	電力使用量の削減	<2008 年実績> 309.6 Kg-CO2	目標	1.48%削減 305 Kg-CO2/百万	1.48%削減 305 Kg-CO2/百万
			実績	314.9 Kg-CO2/百万	
			CO2 排出量	252,248	
	化石燃料使用量の削減	51.8 Kg-CO2	目標	50%削減 25.9 Kg-CO2/百万	50%削減 25.9 Kg-CO2/百万
			実績	28.2 Kg-CO2/百万	
			CO2 排出量	22,607.9	
	合計	361.4 Kg-CO2	目標	8.4%削減 330.9 Kg-CO2/百万	8.4%削減 330.9 Kg-CO2/百万
			実績	343.1 Kg-CO2/百万	
			CO2 排出量	274,856.2	
			評価	×	
2. 廃棄物排出量の削減	廃棄物のリサイクル及び最終廃棄物の削減(リサイクル率向上)	2008 年度 実績 39.7kg/百万 総排出量/売上	目標	42%減量 23kg/百万	前年度比 10%減量 54.5kg/百万
			実績	52.4%増 60.5kg/百万	
			達成	×	
3. 水使用量の削減	水の効率的な利用	2008 年度 実績の維持・継続 0.93/人 [m ³ /月]	目標	0.84/人	0.84/人
			実績	0.94/人	
			達成		
4. 化学物質使用量の削減	化学物質の適正な管理(定期的確認)	・ジクロロメタン ・トルエン (2 品種管理)	目標	3 か月毎に使用量の把握管理を行う	同左
			達成		
5. 製品及びサービスに関する環境配慮	製品含有化学物質の規制について教育	教育による周知	目標	製品含有化学物質の規制についての教育・表示	同左
			実績	3月・8月	
			達成		
6. グリーン購入	購入用紙のECO化推進	購入用紙のECO比率 (参考)	目標	60.0%	60.0%
			実績	56.2%	
			達成		

() 購入電力の排出係数は、0.525 (kg-CO2/kWh)を使用。

[環境目標達成状況の評価記号]

1. 二酸化炭素排出量の削減 電力・化石燃料共に達成：○、何れかが未達成：△、何れも未達成：×
- 2~6 項の環境目標 目標値を達成：○、達成度 80~100%未満：△、達成度 80%未満：×

4. 主要な環境活動計画の内容及び取組結果の評価と次年度の取組内容

項番	取組項目	具体的活動内容	×	取組結果の評価	2016年度の取組
1.	電力使用量の削減	・デマンド監視ツールの更新による管理精度の向上 ・コンプレッサ稼働の効率化検討	×	デマンド監視ツールにより、電気使用量の監視は実施 加工工数の多い受注が多くなり、設備の稼働や加工時間が増大したために電力使用量がなくなった結果	・デマンド監視ツールにより、電気使用量の監視 ・各製品の加工時間の把握を行い、効率の良い段取りを行う。
	化石燃料使用量の削減	・エコドライブの継続実施と定着	×	エコドライブの徹底と燃料使用量の監視 新規顧客の獲得により、移動距離が多くなったため	エコドライブの徹底と燃料使用量の監視 訪問効率の工夫
2.	廃棄物排出量の削減	廃材の分別結果とリサイクルの情報を掲示し、更なる改善を図る	×	・分別作業の徹底 ・新設備導入のため、長期在庫品・端材の整理を行ったので廃棄物量がなくなった。	・分別作業の徹底 ・整理品のリサイクル利用
3.	水使用量の削減	掲示物で啓蒙し、使用量の抑制を図る	×	受注が多くなり、非常勤雇用が多くなり、使用量が増えたと推測する。	掲示物で啓蒙し、使用量の抑制を図る。
4.	化学物質使用量の削減	継続して3カ月毎に確認実施		・定期的の使用状況を把握する事ができるようになった	3カ月毎の確認
5.	製品及びサービスに関する環境配慮	・製品に含有する化学物質に関連した教育		・要求されている製品含有化学物質の規制等の教育 ・含有禁止化学物質の管理についての教育	環境配慮型製品への取組について
6.	グリーン購入	・北用紙の裏紙使用の環境を整備し、裏紙使用の拡大を図る。 ・ECO商品購入比率60%		・裏紙使用の環境を整えた。 ・ECO商品購入比率56.2%と目標を遥かに下回った。	裏紙使用の徹底 ECO商品購入比率60%を目標とする。

5. 環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

5.1 環境関連法規の遵守状況確認と評価結果及び違反

当社に適用される環境関連法規等については、平成28年8月27日遵守状況の確認と評価の結果、違反等の問題がないことを確認しております。

フロン排出抑制法の制定により、弊社空調設備の漏えい及び運転状況の点検の準備をし、法規制順守している。

(確認関係法令・条例：廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の処理及び再利用に関する法律、循環型社会形成推進基本法、資源の有効な利用の推進に関する法律、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、エネルギーの使用の合理化に関する法律、フロン排出抑制法、東京都生活環境保全等に関する条例、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律、消防法、大田区廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、栃木県生活環境保全に関する条例)

5.2 訴訟等

当社の環境管理に対する利害関係者からの訴訟又は関係当局からの指摘等は過去3年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

主に二酸化炭素排出量の削減を中心に原単位での削減に取り組んでいたが、環境目標を達成することが出来なかった。

加工工数の多い製品の受注が多くなり、設備の稼働時間、残業等が増え、電気使用量が増加し、二酸化炭素排出量が多くなったと推測する。

また、新規顧客獲得の営業活動により車両での訪問活動が多くなり、ガソリン使用量も増加した。今後は、遠方の配送、訪問経路の工夫により削減する事が課題である。

廃棄物量に関しても、新設備導入のスペース確保のため、端材や長期在庫品を処分したために増加したと考える。

環境配慮への意識を高めるための仕組みを取り入れてから、その教育及び実践の結果が表れてきている。今後とも従業員の協力を得て、取組の目標達成のために活動して行く。

【見直しの結果】

2015年度の環境目標をほとんど未達成であった。加工工数の多い受注量が増えたことや新規顧客獲得など会社の発展とともにエネルギー使用量が増えたため。

これまでの試作を継続しながら、各項目の新しい取組を計画し、実践して行く。

- ・使用電力量の削減は、デマンド計の動きを監視し、警告が出た時には、間接部門から節電を行う。
- ・稼働効率の為に設備のメンテナンス方法等を見直しなどを行い、効率化を図る。
- ・「製品に含有する化学物質」の情報開示や管理について教育を通じて周知した。
- ・加工効率、作業時間、歩留まりを考慮した生産計画の実施

以上